

# 昭和六十年代の力関係から

庫発りべるき

本書は体験版です

## 〈はじめに〉

本編をお読みになる前に付属の利用上の注意をご確認ください。  
ださい。

## 〈本編開始〉

俺は高校二年の少年。二〇一四年の今、自宅にいる。

そして、目の前に父さんがいる。

「父さん、最近何か忘れ物か落とし物をしたということはなかったか？」

俺は質問をぶつけた。

「……あつた」

父さんは答えた。そして続けた。

「確か、どこかの店のポイントカードだったと思う。会計でそれを出せばポイントがたまり、一定以上のポイントがあれば買い物に使えて、支払う現金が使用ポイント分安くなるというものだ」

「なるほど、よくあるカードだな」

「それがどうかしたのか？」

「……実は、俺、ネット上で……」

ある動画サイトを見ていた。そこでたまたま目にしたも

のは――

「とにかくこれを見てくれ」

俺は父さんを前にして、動画のページにアクセスした。

動画が再生される。

動画の中の人物は気持ち悪い笑顔を画面にさらし、あるカードを目にした。

ここで俺は動画を一時停止する。そこに書かれていたものは――

「こ、これは……!」

俺の父さんの名前だった。

「俺が無くしたカードだ!なんでこの人が持ってんだ?」

そして動画を再び再生する。

「おい、このカードの持ち主さんよ。お前の家に爆弾を仕掛けてやるからな。」

さあ、どうする?アーツハツハツハツハツ

大声で笑うその男のそばには段ボール箱らしきものがある。

「爆弾はここに入っているんだぜ」

明らかにふざけている様子だった。本当に爆弾を我が家に仕掛けたとは考えにくいだろう。

しかし、不愉快である。

それからほんの少しの時間が経って、玄関のインターホンを鳴らす音が聞こえてきた。

父さんは玄関の様子を映すモニターを見る。

服装からすると警察官のようだ。

警官は自分の名前と所属する警察署を伝えた。

イヤな予感がする。

父さんは動揺しながらモニター越しに尋ねた。通信用のマイクを用いて。

「…あの…どういったご用件でしょうか」

「実はこの家に爆弾を仕掛けるという犯行予告動画がネット上で出回っていると通報がありました」

ああ、やつぱりこれかよ。

父さんは警官に、無くしたカードのことなどできるだけ事情を詳しく話した。

で、問題の男はどうなったのかというところ…

「その男ならもう逮捕されてますよ」

警官があっさり答えた。

その男の正体はすぐにわかった。

富山県東部に住む三十四歳の会社員の男性だという。男の実名ももちろん広く公に伝わった。

男は警察の調べに対して、ちよつとした冗談のつもりだったと語っている。冗談でたまたま拾ったカードを使って持ち主（俺の父さん）に対する犯行予告をやらかしたのか、この男は。

問題の動画自体はすでに削除されていたが、そこら中で何らかの形で動画内容を保存している人がいたようだ。

この男の正体と行為は、今後長きにわたって残り続ける

であろう。

ネット上の反応も散々なものだった。

そりゃそうだろう。こんなことが冗談で済まされるかどうか、三十四歳にもなれば判断できるだろうに。

それに不特定多数の人が容易に閲覧できるネット上で大々的にこんなことをしてかせば、閲覧者によって通報されることだって想像できたはずである。

実際、何を血迷ったのか自らとんでもない行動をやらかして、それをネットで公開して通報されて逮捕された者や、そこまではいかなくとも生活に膨大な支障をきたした者は多い。

ところが、である。

一部のブログではこんなことが書かれていた。

「今のご時勢、ちよつとした冗談で逮捕されるとは、なんだかやりにくい世の中になったものです」

また、こんなことも書かれている。

「通報した人も過剰反応しすぎですよ」

全体的に犯行予告をしたアイツを擁護するような内容になってる。

一体なぜだ？

ちなみにそのブログではコメントを書き込んだりトラックバックを送ったりはできない設定になっている。

まあ、コメントの書き込みを受け付けた状態でこんなことを書けば、ブログが炎上するのは目に見えているが。

男の逮捕から数日後の夜。  
俺の自宅からどのくらい離れたところであろうか。

富山県東部の、とある地方。

すつかり夜も更けて、あたりは真っ暗だ。

交通量の少ない道路上の歩道。

一人の男性を三人の男が取り囲んでいる。

「だからさ、俺は知らないって」

「うそつけ！お前がアイツのことを通報したんだろう！」

取り囲まれた男性は怯えつつ、男達の問い詰めるような

言葉を否定した。

しかし三人は、この男性が自分たちの意に沿わぬことを  
したと思いついでいるようだ。

それを裏付ける証拠は無いにも関わらず。

三人の男のうちの一人が男性に掴みかかる。

ただならぬ気配を感じた男性はそれを振りほどくと、急

いでその場から走り去った。

そして、急いで逃げた。

それを追う三人の男達。しかし、その時点でもう遅かつ

た。

逃げながら携帯電話で一〇番通報する男性。その上交  
通量の多い道路に出た後も、三人の男は男性を執拗に追っ  
てきた。

少し落ち着きを取り戻した男達は、自分がやってきたこ

とが皆に見られていると知り、驚愕していた。

これだけ目撃者が多数存在していれば、もう自分たちの  
したことが発覚するのは時間の問題だろう。

そして――

その三人は程なく逮捕された。自分たちが取り囲んだ男  
性を脅迫したとして。

脅された男性も脅した三人も、三十四歳、会社員。勤務

先はそれぞれ違うところ。

どうやら俺の父さんを脅すようなことをネットでやらか  
したアイツを通報した奴を探していたらしい。

しかも、である。

ネットで犯行予告をした者、今回の三人組の男、そして  
通報した者と思われた拳句、追われた人それぞれが小学校、

中学校時代の同級生だったという。

捜査過程でわかったのは、犯行予告をした者を擁護する

ようなことをブログに書いたのは三人とは別人だったとい

うこと。また、追われていた男性でもない。

そして、追っていた者、追われていた者と、同級生の男

性だったという――

〈続きは製品版で〉

著者 庫発りべるぎ

発行 データコーディネートフォルダー  
二〇一四年 六月七日

(C) Kohatsu Riberuki